

MAKE THE WORLD

POWERFUL

with food science

FUJI NIHON CORPORATION
**INTEGRATED
REPORT**

フジ日本株式会社 統合報告書 2025

2025

PURPOSE パーパス

MAKE
THE WORLD
POWERFUL
with food science

“ 食を科学し
世界をパワフルに ”

PHILOSOPHY 企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、
健康な生活づくりに貢献します。

CONTENTS

- 01 パーパス／企業理念
- 02 目次

Part. 1 フジ日本の価値創造

- 03 トップインタビュー
- 07 フジ日本のあゆみ
- 09 価値創造プロセス
- 11 セグメント別概況

Part. 2 経営戦略

- 13 長期経営計画「NEXT VISION 2040」
- 15 中期経営計画「CHANGE 2028」
- 16 事業戦略
 - －糖類事業
 - －機能性素材事業
(イヌリン事業／フードサイエンス事業)
 - －フラワー事業

Part. 3 ESG経営

- 24 ESGの取り組み
 - －E 環境への取り組み
 - －S 社会への取り組み
 - －G ガバナンス
- 31 社外取締役インタビュー

Part. 4 コーポレート・データ

- 33 経営戦略
- 35 財務・非財務ハイライト
- 36 会社情報

編集方針

本報告書は、フジ日本グループの企業理念とパーパスのもと、すべてのステークホルダーの皆さまに、中長期経営計画を通じた持続的な成長をお伝えすることで、事業戦略や想いをご理解いただくとともに、新たな対話機会の創出につなげ、今後のさらなる成長を図ることを目的としています。

対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日を主たる対象期間としていますが、一部当該期間の前後する記述も含まれます。

報告対象組織

フジ日本株式会社並びに子会社、関連会社(当社グループ)。グループ全体の情報を把握できていない関係上、取り扱う内容により対象が変動いたします。

将来の見通しに関する注意事項

本報告書に記載されている将来の計画、戦略、見直しなどは、開示時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などの結果はさまざまな要因により、異なる可能性があります。

発行時期 2026年3月



代表取締役社長
曾我 英俊

TOP INTERVIEW

「攻めへの転換」による飛躍を目指して 経営基盤を強化し、成長戦略を遂行します。

統合報告書の発行について

フジ日本グループは、これまで企業理念である「夢のあるたくましい会社」に沿い、長年にわたり培ってきた当社の精糖技術を活かし、お客様をはじめ、地域社会の皆さまへ価値のあるサービスを提供して参りました。しかしながら、昨今の食品におけるニーズの多様化をはじめ、世界的な健康志向が高まりを見せる中、今後は当社グループの事業規模をさらに拡大させていく必要性が迫られるものと捉え、2023年に「食を科学し世界をパワフルに」をパーパスとして掲げるとともに、長期経営計画「NEXT VISION 2040」を策定し、糖類事業並びに機能性素材事業といった主力事業の深耕のみならず、「糖」をテーマとした周辺領域への進出を図り、守りの経営から攻めの経営へとシフトすべく、新たなスタートを切りました。本報告書は「NEXT VISION 2040」の目標達成に向けた持続的な成長の過程を当社のステークホルダーの皆さまへ発信することを目的としておりますが、まず初回の報告のコンテンツにつきまして、2026年3月期の見通し並びに中期経営計画に対するセグメント別の事業報告をはじめ、事業戦略・経営戦略におけるトピックスをご紹介します。これにより、フジ日本グループの事業理解を深めていただくとともに、皆さまとのコミュニケーションを通じて、さらなる事業成長に資する流れに帰結することが叶いますれば幸いです。

2025年上期の振り返りと 通期の見通しについて

全般的に好調に推移し、売上高と営業利益をしっかりと伸ばすことができた上期であったと捉えています。売上

高は、糖類事業・機能性素材事業ともに前年同期を上回り、利益面では、機能性素材事業の伸びが大きく牽引する形となりました。売上高全体に占める機能性素材事業の割合は、年々上昇しており、この上期は初めて糖類事業の売上高比率を上回りました。

結果として上期の連結業績は、売上高141億80百万円（前年同期比4.2%増）、営業利益18億47百万円（同14.3%増）、経常利益19億72百万円（同3.9%増）、親会社株主に帰属する中間純利益15億22百万円（同6.9%減）となりました。中間純利益の減少は、主に株式売却による特別利益の減少によるものです。

事業別に振り返ると、糖類事業では、インバウンド需要の増加を追い風に販売数量を伸ばしました。一方で、原糖市況は下落傾向で推移し、原材料費と物流費の上昇が続いたため、前年同期比で増収となったものの、利益はほぼ横ばいとなりました。

機能性素材事業では、主力商品の機能性食品素材「イヌリン」が、国内外で販売数量を伸ばし、特にタイおよび東南アジア各国で大手ユーザー向けの販売が大幅に増加しました。東南アジアで積極的な営業活動を行うべく、海外営業部隊を日本からタイへ移した効果も表れています。「イヌリン」を生産するタイの工場は稼働率が上昇し、採算性の改善により利益を大きく押し上げました。また連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、食品メーカーに企画提案する嚙下防止用途などの介護食向けソリューションが好調に推移したほか、収益性の高いODM・コンサルタント事業も伸長しました。以上により機能性素材事業全体で、増収・増益となりました。

下期においては、米国の関税措置による影響が徐々に顕在化し、当社が海外事業の主戦場とする東南アジアでも経済減速の懸念が拡大しています。国内でも、糖類事業において業務用砂糖の出荷価格が引き下げられるなど、上期以上に厳しい経営環境となる見通しです。

FUJI NIHON CORPORATION

TOP INTERVIEW

このような状況においても、糖類事業においては安定した原料調達や各種コストの削減、機能性素材事業においてはイヌリン事業での東南アジア市況の伸長と、連結子会社ユニテックフーズ株式会社の高付加価値商品販売数量が好調に推移していることから、通期の連結業績を期初計画から変更し、売上高287億円（前期比1.7%増）、営業利益35億円（同8.3%増）、経常利益36億円（同1.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益30億円（同5.4%増）と予想しています。

2026年度の取り組みについて

第1次中期経営計画は来年度で3年目に入りますが、引き続きM&Aを軸とした投融資を進め事業拡大を図っていきます。一方、これまでに着手した案件については、具体的な戦略の実行と収益の確保が求められるため、あらゆるリソースを総動員させて計画の達成につなげたいと考えております。

糖類事業では、引き続きインバウンド需要が見込めるものの、物価高による消費の伸び悩みが予想され、物流・エネルギーコストも高止まりが続き、経営環境は依然として予断を許さない状況です。引き続き営業体制の充実と品質管理を徹底させ、サプライチェーン全体の効率化と安定供給に向けた取り組みを継続して参ります。

機能性素材事業のイヌリンは、世界的な健康志向の高まりがみられる中、食物繊維として初めて「脳」（疲労感とストレスの緩和）と「骨」（カルシウムと同時摂取による骨密度の維持）に関する機能性表示が受理されました。イヌリン

が持つさまざまなヘルスクレームを武器に、競合品との差別化を訴え、多様なニーズに応える形で国内外の販売網を拡大させていきます。また、2027年にはタイ工場の製造能力を1.5倍に増強する予定であります。

成長戦略としては、引き続き中期経営計画で掲げた5つの重点テーマが重点施策となりますが、業務提携や

M&Aを通じた国内外双方での事業拡大に加え、当社の企業価値向上や人財獲得に向けた採用・広報・IR活動を積極的に展開して参ります。

直近における新たな事業展開や体制整備について

直近の動きとして、当社は2025年10月29日、塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約を締結しました。本契約にもとづき、製造、購買、ロジスティクス、研究開発・商品開発の4テーマで同社と協業し、糖類事業および機能性素材事業において、双方の強みを活かした取り組みを進めていきます。

当社と塩水港精糖株式会社は、東洋精糖株式会社を加えた3社出資による精製糖受託会社「太平洋製糖株式会社」にて、共同生産を行って参りました。業界再編が進行する中で、あらためて両社のパートナーシップを強化すべく、今回のアライアンスに至ったものです。今後は、老朽化した共同生産設備の更新・増強を行うほか、共同購買や倉庫の共同運用・共同配送などによるコストダウンと効率化を図り、中長期的には新素材の開発や商品展開においても相互協力し、競争力の強化を目指します。

海外事業では、タイの「イヌリン」生産子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.において包装設備の更新などISO基準向上に向けた体制整備を行い、お客様であるグローバルメジャー企業の要求品質を実現しています。また同工場では、太陽光発電設備を導入し、再生可能エネルギーを操業に一部利用するなど、お客様のSDGs対応や同国の環境政策に合わせた取り組みを進めています。引き続き現地市場の要請に応え、販売面の優位性を保持して参ります。

さらに、大手食品会社Thai Wah Public Company Limitedとの協業によるキャッサバでん粉製造販売事業は、2025年3月末の参入から半年が経過しました。初年度の課題である事業の安定化に向けた取り組みが進んでい



確固たる基盤を強みに
世界市場で活躍する
フードサイエンスカンパニーへ

ます。当社は協業スキームの中で日本基準の品質確保を担い、品質管理専門技術者を合併会社のでん粉工場に派遣し、品質向上への改善活動を実施しています。これを協業の礎として、商品開発や販売活動へ展開していく中長期的なパートナーシップを構築して参ります。

中期経営計画の進捗状況について

2年目に入った5ヵ年中期経営計画「CHANGE 2028」は、スローガン「攻めへの転換」の具現化に向けて、重点テーマにもとづく成長戦略（①海外事業の推進 ②新規事業領域の拡大への積極投資）と経営戦略（③ブランドの確立 ④ESG経営の推進 ⑤企業価値向上に向けた財務資本政策）の強化を着実に進めています。特に東南アジアでの事業拡大については、タイ子会社Fuji Nihon (Thailand) Co., Ltd.を同地域のハブ的機能を担う統括会社と位置付け、体制強化を図っています。前述の通り、日本からタイへ移した海外営業部隊も成果を上げています。

成長投資では、キャッサバでん粉製造販売事業への出資に続き、新規事業の創出に向けた取り組みが進行しており、今後M&Aも含めた投資案件を具体化して参ります。経営基盤の強化では、ペーパーレス化などのデジタル活用やフリーアドレス制の導入による業務効率向上、人事制度刷新による社員のモチベーション向上を図り、企業価値に資する人的資本経営を推進しています。

また「CHANGE 2028」では、5年間のキャッシュ・アロケーションとして、「投融資180億円」「配当50億円」の配分を想定し、株主還元について「DOE（株主資

本配当率）3.5%以上」を目標に掲げています。また、株主や投資家の皆さまにとって、より投資しやすい環境を整え、株式の流動性の向上と投資家層のさらなる拡大を図ることを目的として、2025年12月31日に保有されている株式を対象に、2026年1月1日付で1株を2株に分割いたしました。なお、今回の株式分割の実施に伴い、期末配当は当初予定しておりました1株あたり19円から2円増額することを決定いたしました。これにより、2026年3月期の配当は、1株あたり36円（中間15円、期末21円）となる見込みです（株式分割前換算ベース）。

この5年間は、当社が掲げる長期ビジョン「世界で闘う企業へ」のファーストステージに位置付けられます。中期経営計画の達成を通じて長期ビジョン実現の基盤を確立し、次の成長ステージに向けて飛躍して参ります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ステークホルダーの皆さまへ

フジ日本グループは、長年にわたり精糖メーカーとしてB to Bを主体とした事業を通じて、日本の食卓を豊かにして参りましたが、今後は新たな食の価値を創るべく、これまで築き上げてきた確固たる基盤を強みに世界市場へ向けたフードサイエンスカンパニーを目指して参ります。そして、株主様をはじめ、当社を取り巻くすべてのステークホルダーの皆さまからのご期待に沿うべく、日々努めて参りますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

フジ日本のあゆみ

日本精糖とフジ製糖が合併し、フジ日本精糖が誕生してから23年の時を経て、当社は長期経営計画「NEXT VISION 2040」を策定するとともに、2024年には「フジ日本株式会社」に社名を変更し、精糖メーカーから世界的なフードサイエンスカンパニーへ変貌を遂げるべく、新たな一歩を踏み出しました。

2001年

- 日本精糖株式会社とフジ製糖株式会社が合併し、商号をフジ日本精糖株式会社に変更
- 太平洋製糖株式会社において、精製糖の共同生産開始



2004年

- 清水事業所における精製糖(液糖を除く)の生産停止

2005年

- イヌリンの研究成果が、米国科学会が発行する食品化学論文誌「Journal of Agricultural Food and Chemistry」に掲載
- フードサイエンス工場竣工

2007年

- 平成19年度民間部門 農林水産研究開発功績者表彰において、「スクロースを原料として酵素で作られたイヌリンの性質と食品への利用」の研究で「農林水産大臣賞」を受賞

2008年

- 清水事業所原糖倉庫跡地の賃貸開始(ヤマダ電機様)
- ユニテックフーズ株式会社の株式を取得(現・連結子会社)

2003年

- 日本精糖横浜工場跡地の賃貸開始(コーナン様)
- 清水事業所イヌリンプラント完成
- イヌリン製品「フジFF」販売開始



イヌリンプラント



2011年

合併10周年

2012年

- Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd. 設立



2013年

- Fuji Nihon (Thailand) Co., Ltd. 設立

2017年

- イヌリンの「整腸作用」に関する機能性表示申請受理
- イヌリンの「血中中性脂肪低減効果」「食後の血糖値上昇抑制効果」に関する機能性表示申請受理

2019年

- 砂糖小袋のブランドマークリニューアル



2020年

- 東京本社移転(日本橋茅場町→日本橋兜町)

2020s

2014年

- Day Plus (Thailand) Co., Ltd. 設立



2021年

合併20周年

- 「イヌリーナ」発売



2022年

- 「フジのイヌリン」発売
- 株式会社Tastableへの出資参画



2023年

- 屋上菜園「Edible KAYABAEN」のパートナー企業として協賛
- 東京本社跡地の賃貸開始(東横INN様)
- 長期経営計画「NEXT VISION 2040」策定
- 株式会社digzymeとの業務提携契約締結

2024年

- 株式会社digzymeへの出資参画
- 中期経営計画「CHANGE 2028」策定
- 株式会社サイキンソーへの出資参画

2030s

2025年

- Thai Wah Public Companyとの合併会社 Thai Wah Fuji Nihon Co., Ltd.設立



- 塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約締結
- イヌリンの「脳機能」「骨密度」に関する機能性表示申請受理

価値創造プロセス

外部環境



国内人口減少・高齢化



国際情勢、経済環境の変化



デジタル化の波及



地政学リスクの高まり



地球温暖化の加速

INPUT

財務資本

- ▶ 堅固な財務基盤
- ▶ 総資産 33,761百万円(2025年3月期)
- ▶ 自己資本比率 70.6%(2025年3月期)

知的資本

- ▶ 食の領域に長けた研究開発体制
- ▶ 研究開発費 9,300万円(2025年3月期)

人的資本

- ▶ 従業員エンゲージメント向上のための人事制度
- ▶ 働きやすい職場環境

社会関係資本

- ▶ ステークホルダーとの良好な関係
- ▶ 砂糖・イヌリン製品のブランド力

自然資本

- ▶ サトウキビなどの自然由来のリソースを活用
- ▶ サステナビリティ委員会を中心とした環境課題への対応

製造資本

- ▶ 国内外に及ぶグループネットワーク

持続的成長に向けた再投資

パーパス

MAKE THE WORLD POWERFUL with food science

食を科学し世界をパワフルに

長期経営計画 “NEXT VISION 2040”

2024年4月～ 中期経営計画 “CHANGE 2028”

海外市場と新たな領域の確立
精糖メーカーからフードサイエンスカンパニーへ

2029年4月～ 5ヵ年計画

2034年4月～ 5ヵ年計画

— 第1次 —
攻めへの転換

— 第2次 —
多角化と成長

— 第3次 —
世界市場への浸透

糖類事業

- ・国内事業の基盤強化
- ・海外市場への進出

機能性素材事業 (イヌリン、フードサイエンス)

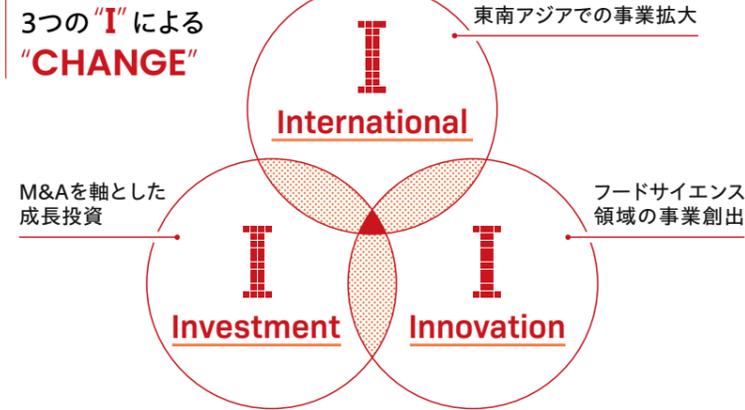
- ・海外営業力の強化(イヌリン)
- ・機能性素材の多角化(イヌリン)
- ・OEM一極化からの脱却(フードサイエンス)

新規事業

- ・M&Aによる新領域開拓
- ・企業ブランドの確立

事業戦略骨子

3つの“I”による “CHANGE”



中長期経営計画を推進

◎ マテリアリティ



海外市場への本格シフトによるグローバル企業としての地位確立



「食」を通じた新たな顧客とマーケットの開拓



M&A、設備投資、研究開発による利益創出



外部環境に対応する柔軟な組織運営と次世代人材の育成



株主還元施策と最適資本構成による持続的な企業価値向上

◎ ESG経営 環境/社会/統治

◎ 経営戦略 組織改革/DX推進/人的経営/グループ経営推進

OUTPUT

経常利益	海外比率	ROE
100 億円	40 %以上	12 %以上

OUTCOME

顧客

- ▶ 高品質提供製品
- ▶ ニーズに応える商材提供による顧客の製品品質向上
- ▶ 顧客満足度アップ

従業員

- ▶ スキル獲得 ▶ やりがい ▶ 士気向上

パートナー

- ▶ 安定取引による持続性の向上(収益の安定化)
- ▶ 事業シナジーの獲得

株主

- ▶ 事業成長による利益の還元

投資家

- ▶ 株価・時価総額の増額

地域社会

- ▶ 地域イベントの実施・協賛 ▶ 雇用創出

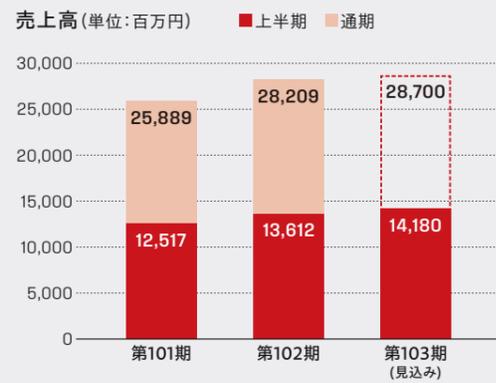
地球環境

- ▶ CO₂排出削減
- ▶ バリューチェーンにおける環境負荷低減

セグメント別概況

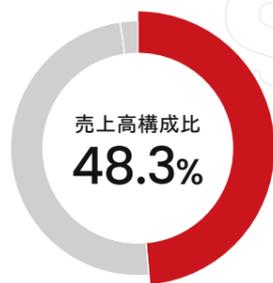
2024年にスタートした第1次中期経営計画「CHANGE 2028」は2年目を迎えました。これまでの大きな成果としては、タイにおけるThai Wah Public Company Limitedとの合弁会社設立によるキャッサバでん粉事業への参入が挙げられます。今後は中長期的視点での事業拡大に向けた取り組みを本格化させます。上半期においては、大阪・関西万博やインバウンド需要、物流やエネルギーコスト上昇により糖類事業は増収減益、機能性

素材事業はイヌリンの販売が国内外とも伸長し、ユニテックフーズ株式会社の好調な業績が大きく貢献し、全体では前期比増収増益となりました。下半期は、糖類事業においては堅実で安定した原料の調達と各種コストの削減、機能性素材事業においてはイヌリン事業での東南アジア市況の伸長とユニテックフーズ株式会社の高付加価値商品販売数量が好調のまま推移していることから、通期の連結業績を期初計画から変更しております。



糖類事業

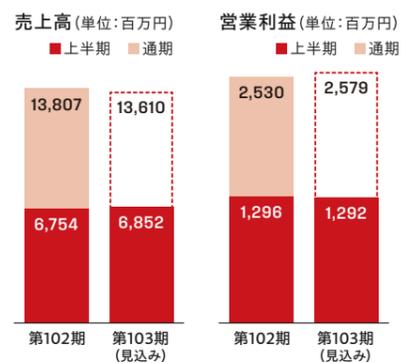
精製糖、砂糖関連製品の製造販売



天候に恵まれたことに加え、春の行楽需要による人流の増加、さらに4月中旬に開幕した大阪・関西万博の効果もあり訪日客も増加傾向が続きました。これにより、インバウンド需要による外食関連や土産菓子向けの出荷が好調となり、前年同期比で増加となりました。コスト面では原材料費、物流コストの上昇が続いている中、品質管理の徹底による製品の安定供給に取り組むことで顧客満足度の向上を図りました。加えて、堅実かつ安定的な原料調達を推進し、コスト削減に努めました。この結果、糖類事業の業績は、売上高6,852百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益1,292百万円(同0.4%減)の増収減益となりました。なお、通期の予想は売上高13,610百万円(前期比1.5%減)、営業利益2,579百万円(同1.9%増)の減収増益と見込んでいます。

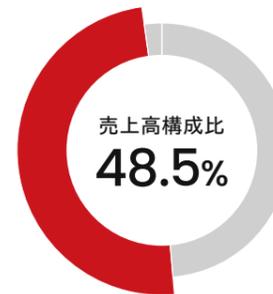
当上半期の概況

売上高 **6,852** 百万円
営業利益 **1,292** 百万円



機能性素材事業

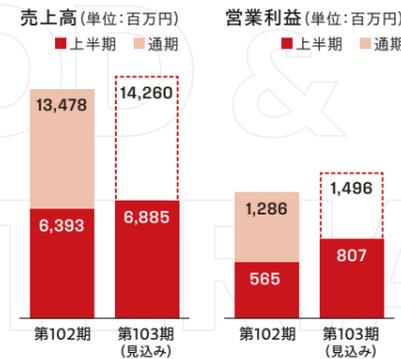
機能性食品素材、食品添加物等の製造販売、果実加工原料の販売



機能性素材事業につきましては、「イヌリン」の国内販売が、加工食品向けが苦戦する中、引き続き健康訴求向けの販売が好調に推移し、前年同期比で販売数量が増加しました。連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.では、タイおよび東南アジア各国で大手ユーザー向けの販売が増加した結果、前年同期比で大幅増となりました。連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、猛暑の影響もあり、夏場に荷動きが鈍りましたが、素材販売全体で売上数量を伸ばしたことから増収増益となりました。これらの結果、売上高6,885百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益807百万円(同43.1%増)の増収増益となりました。なお、通期の予想は、売上高14,260百万円(前期比5.8%増)、営業利益1,496百万円(同16.2%増)の増収増益と見込んでいます。

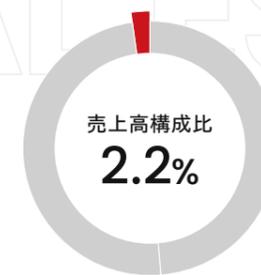
当上半期の概況

売上高 **6,885** 百万円
営業利益 **807** 百万円



不動産事業

当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業



不動産事業は、旧・東京本社跡地をはじめとした収益物件が引き続き安定稼働し収益確保に貢献していますが、2025年2月に資本効率向上の一環として、東京都、神奈川県、長野県所在の3物件を売却処分した結果、売上高318百万円(前年同期比2.8%減)、営業利益290百万円(同0.3%増)の減収増益となりました。

当上半期の概況

売上高 **318** 百万円
営業利益 **290** 百万円

長期経営計画

フジ日本では2024年4月を起点にした2040年までの長期経営計画「NEXT VISION 2040」を実行しています。バックキャストで5年区切りの中期経営計画を3次に分けて策定し、現在は第1次中期経営計画となる「攻めへの転換」を推進しています。

OUR LONG-TERM VISION

長期ビジョンにおける戦略骨子と長期経営目標

NEXT VISION 2040

世界で闘う企業へ —— 海外市場と新たな領域の確立 ——

自然由来の甘味料 —— フジ日本の始まりであり、今日まで成長してきた原点です。その長い歴史を大切にしながら、私たちは次のステップへと飛躍します。
日本から、世界へ。常識から、挑戦へ。
食の新たな価値を創造していきます。食を科学し、世界をパワフルに。



【 Vision アップデートにおける5つのポイント(マテリアリティ) 】

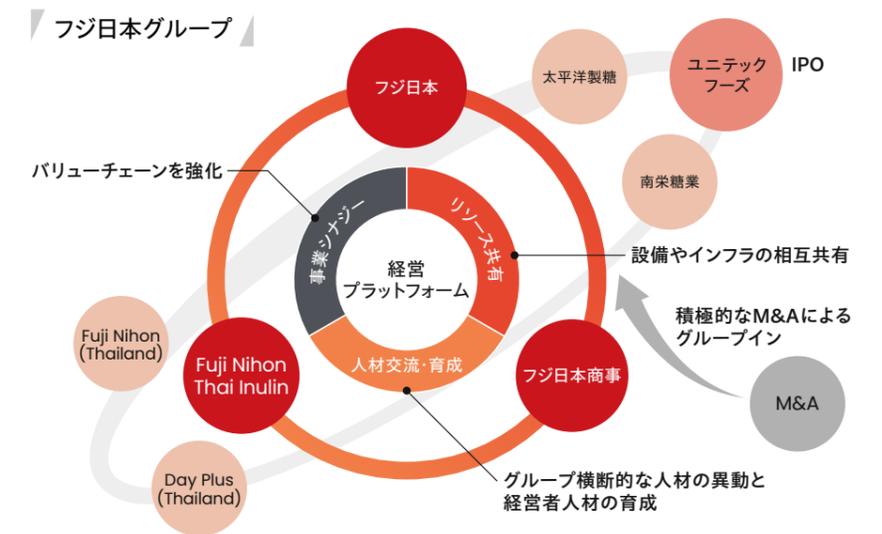
「NEXT VISION 2040」の策定にあたり、事業戦略と経営戦略の両軸を踏まえた5つのポイント(マテリアリティ)を設計。事業戦略の観点では、海外事業の推進と新規事業領域の拡大への積極投資に加え、ブランドの確立をポイントとしました。経営戦略においては、ESG経営の推進と企業価値向上に向けた財務資本政策に重点を置いています。これらを推進することでPBRI.0倍超を維持する持続的な企業価値の向上を実現していきます。また、その企業価値を基盤に長期ビジョンの達成を目指すものと考えています。



持続的な企業価値向上 (PBRI.0倍超の維持) の実現

【 グループ経営体制 】

グループの経営プラットフォームを確立し、経営合理化を図ることも長期ビジョンの達成に欠かせない要素です。フジ日本グループでは、グループ全体で事業シナジー、リソースの共有、人材交流・育成を推進することでグループ経営の基盤強化を図っています。これらに加え、「会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成」をテーマに、組織改革や人的資本経営、グループ経営推進、DX推進など複合的な組織経営戦略を推進しています。



中期経営計画

MEDIUM-TERM VISION

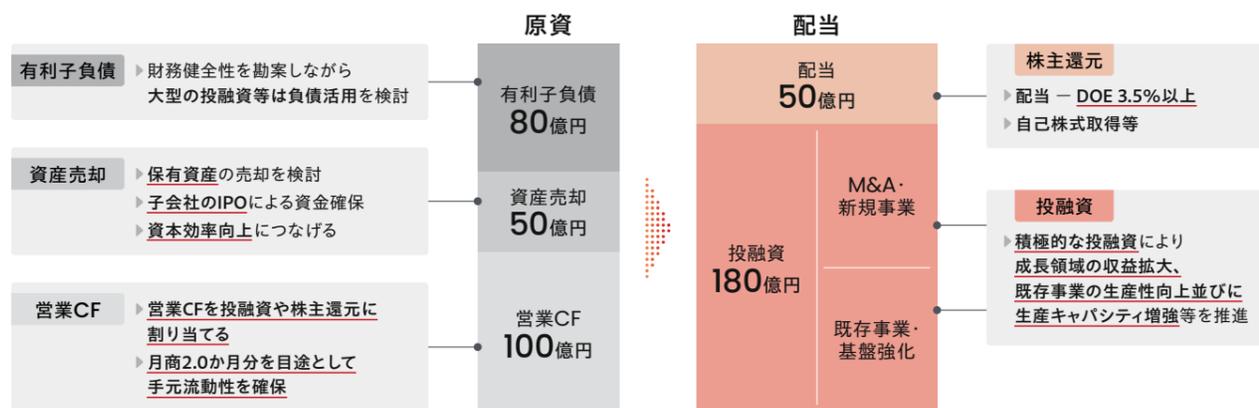
当社では長期ビジョン「NEXT VISION 2040」を達成するため、2024年度から5年間の第1次中期経営計画「CHANGE 2028」を策定し、推進しています。スローガンである「攻めへの転換」を実行すべく、5つの重点テーマを軸に各事業部で目標の達成に向けた取り組みを展開しています。

中期経営計画

CHANGE 2028

目指す姿 連結経常利益 36 億円 ROE 9.0% 以上	5つの重点テーマ 事業骨子 1. 東南アジアでの事業拡大 2. フードサイエンス領域の事業創出 3. M&Aを軸とした成長投資 経営骨子 4. ビジョン実現に向けた強い組織づくり 5. IRの強化と株主還元
投資戦略 投融資 180 億円 DOE 3.5% 以上	4つのコアバリュー 1. 精糖 基礎原料のサプライチェーンの一翼を担い、安定供給に貢献する 2. イヌリン さとうきび由来の食物繊維と独自のソリューションで、お客様のアイデア実現のお手伝いをする 3. フードサイエンス 長年培った独自のノウハウで、食品加工の新たな一歩をお手伝いする 4. キープフラワー 消費者に寄り添った商品づくりで、花と人が長く過ごせる時間を提供する
非財務戦略 (ESG) E ：予測される気候変動のリスクを緩和し事業機会を獲得する S ：人間尊重を基本とした企業文化の形成 G ：実効性のある高いレベルのコーポレートガバナンス	
経営戦略 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成 組織改革 人的資本経営 グループ経営推進 DX推進	

成長に向けたキャッシュアロケーション



事業戦略

SUGAR

糖類事業

お砂糖は脳と身体のエネルギー源。自然の甘さで楽しく健康な毎日を。

お砂糖は古くから私たちが生活する上で欠かせない、とても身近な食品です。料理やお菓子作りで食材をより際立たせて美味しくするのはもちろんのこと、心臓や筋肉を動かす脳への大切なエネルギー源となり、体づくりを促進する効果もあります。また、お砂糖は添加物などが一切使われていない、自然の恵みから生み出された天然の甘味料です。私たちはお砂糖を通して皆さまの楽しく健康な生活をサポートします。



砂糖製品紹介



グラニュー糖
 光沢のある純度の高い白色のお砂糖。
 主な用途 飲料、缶詰、菓子類



上白糖
 しっとりとした手触りのある日本独自の代表的なお砂糖。
 主な用途 パン類、菓子類、ジャム類



三温糖
 味が濃厚で風味があり、しっとりとした褐色のお砂糖。
 主な用途 煮物、佃煮



白双糖
 光沢があり、比較的溶けにくく上質な甘みがある。
 主な用途 リキュール、高級菓子、ゼリー



中双糖
 比較的純度は高いが、結晶の表面がカラメル色素により黄褐色を帯びている。
 主な用途 漬物、煮物



液糖
 ショ糖に加水した液体状のお砂糖。
 主な用途 飲料



黒液糖
 精製糖工程にて副生される蜜分などを主原料とした液状のお砂糖で、品質はさまざま。
 主な用途 ソース類

お砂糖ができるまで



【重点テーマ】



重点テーマイメージ



成長戦略投資



【主な取り組み】

■ 塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約締結

フジ日本は、2025年10月に塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約を締結しました。精糖分野では共同生産工場の運営や課題に対する取り組みを通じて、競争力のある工場を目指します。両社の特色と強みを活かし、シナジーを最大限に生み出すために右記の内容で提携することを定めています。

製造	1 効率化と設備更新における協力体制	購買	1 生産地の情報共有
	2 製造品質の向上		2 共同配船
	3 製造コストの低減		3 共同購買

物流	1 製品倉庫の共同運用と共同配送
	2 効率化によるコストダウンとCO ₂ 削減の推進

■ キャッサバでん粉事業への進出

タイのキャッサバでん粉大手の Thai Wah Public Company Limited (TWPC社) との合併会社である Thai Wah Fuji Nihon Company Limited (TWFN社) を2025年3月に設立しました。このパートナーシップは、当社が掲げた長期ビジョンのコンセプトとして掲げる「世界で闘う企業へ」「海外市場と新たな領域の確立」に向けた取り組みの一つであり、アジア太平洋 (APAC) 地域における事業展開を後押しするものです。今後、未開拓市場への進出や流通網の強化、潜在成長力の高い分野への再投資といった新たな機会を通じて、当社の海外分野におけるプレゼンスを高め、製品ラインナップを充実させるほか、株主価値を高めながら持続可能かつ長期的な成長を実現することを目指します。でんぷん事業課ではTWFN社の生でん粉を国内の糖化製品メーカーへの拡販のほか、TWPC社の加工でん粉およびバイオプラスチック樹脂の展開を狙うなど、さまざまな可能性を視野にチャレンジしています。こうした動きを受け、2025年10月から糖類事業部内にでんぷん事業課を設置し、販売事業を軌道に乗せていく予定です。



Thai Wah Public Company Limited (TWPC社) について

キャッサバでん粉をベースとした食品原料・製品並びに生分解性素材を専門とする東南アジア有数のリーディングカンパニー。創業から約80年もの歴史を持ち、農場から食卓までに至る持続可能性や食のイノベーションに取り組む。8カ国に16カ所もの製造拠点を構え、販売網は40カ国以上におよぶ。

関連会社のご紹介

糖類事業では、生産や販売などの工程で関連会社と連携することでより多くのお客様に製品をお届けしています。

太平洋製糖株式会社

太平洋製糖株式会社は、当社を含めた精糖メーカー3社による共同生産工場です。砂糖製造のプロフェッショナルとして、精製糖および液糖製品の生産効率化並びに、高品質な製品の提供を追求しています。加えて、省エネルギーをはじめ、廃棄物の再利用や社会奉仕活動など、サステナビリティに対する取り組みについても積極的に推進しています。



神奈川県横浜市の太平洋製糖社屋

フジ日本商事株式会社

フジ日本商事株式会社はフジ日本株式会社の100%子会社として砂糖販売代理店を主な事業としています。同社は昭和26年に旧日本精糖株式会社の代理店、協立商事株式会社として設立。その後、協立砂糖株式会社、協立食品株式会社を経て現在の社名「フジ日本商事株式会社」となりました。設立当時は現在のマ・マ・マカロニ株式会社の関東地区代理店としてマカロニやパスタの販売も行い、現在は当社の砂糖・イヌリン販売代理店のほか、南アフリカ産パレンシアオレンジ缶やエクアドル産バナナピューレなど加工食品部門の販売にも注力しています。



代理店として販売するバナナピューレ、オレンジセグメントのイメージ



事業戦略

INULIN

機能性素材事業 イヌリン

「腸のキレイがわたしのキレイ。」
腸の健康でしあわせ生活を。

世界で唯一のサトウキビ由来の水溶性食物繊維、イヌリン「Fuji FF」。私たちは糖類事業で培った経験を基に、独自の技術によって世界で初めてお砂糖からイヌリンを作り出すことに成功しました。腸内環境の改善だけでなく、肌、骨、脳機能など体のさまざまな健康機能へ効果があることが分かっています。イヌリンを通じて「腸のキレイ」から身体や心を健康に、「しあわせ生活」を支えます。



腸内細菌と腸活

腸内細菌は腸内に住む微生物でおよそ1,000種類、100兆個も生息しているといわれています。食物繊維の分解や免疫調節を担当し、全身の健康に影響を与える重要な役割を果たします。腸活は腸内環境を整えて良い状態にする活動です。バランスの取れた食事や生活習慣を通じて腸内環境を良好にし、心身の健康をサポートします。

イヌリンとは？

イヌリンとはタマネギ、ゴボウ、ニンニクなどの野菜類に含まれる、水溶性食物繊維の一種です。イヌリンはビフィズス菌などの善玉菌を増やす力が高く、腸内環境を良好にする働きがあります。腸をキレイにすることで健康の維持に役立ちます。

タイ工場からさらなる飛躍へ

Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd. は2012年に設立し、2014年に初回製造出荷を開始しました。2026年で14年目を迎え、現在では日本人5名を含む100名を超える組織です。糖類事業に次ぐ新たな柱を模索する中で、精糖技術を基盤に砂糖を原料とした機能性素材「イヌリン」を世界で初めて独自開発したことが、本事業の出発点でした。その後、ゼロから品質改善に地道に取り組み、30年以上にわたり営業活動を継続してきました。FSSC22000、GHPs、HACCP、HALAL、Kosherといった各種国際認証も取得し、高い安全性と信頼性のある製品供給に努めた結果、日本・タイに加え、東南アジアを中心とした世界各国のお客様より高い評価をいただけるようになりました。これらの歩みをレガシーとして大切に、組織一丸となりさらなる飛躍を目指します。また、水溶性食物繊維であるイヌリンの整腸機能は広く知られていますが、近年の研究により、腸の健康が全身の健康にさまざまな好影響をもたらすことが明らかになってきています。今後もイヌリンを通じて、人々の健康で豊かな生活に貢献することに誇りを持ち、その価値創造に努めます。



サトウキビ由来イヌリン / Fuji FF

「Fuji FF」とは世界で唯一、独自の技術によってサトウキビを由来とするイヌリンです。砂糖のようなやさしい風味を持ち、水に溶けやすいことが特長です。イヌリン(Fuji FF)は他の水溶性食物繊維(難消化性デキストリンやポリデキストロース)と比べて100%が腸内細菌のエサになります。

イヌリンの特長

01 おなかの調子を整える	04 肌の保湿力を高める
02 食後血糖値の上昇を抑える	05 骨密度の維持に役立つ
03 血中中性脂肪を下げる	06 疲労感やストレスを緩和する

【重点テーマ】



重点テーマイメージ



成長戦略投資



【主な取り組み】

塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約締結

2025年10月より、塩水港精糖株式会社とのアライアンス契約を締結しました。機能性食品(バイオ)分野では、塩水港精糖の強みであるリテール領域、フジ日本が得意とするB to B領域および海外領域において、新素材の開発や商品の共同開発を推進することでシナジーを追求していきます。

タイ工場のイヌリン製造能力を1.5倍に拡大

フジ日本のイヌリンの販売数量は国内外で年々増加し、特に海外では大手ユーザーへの納入が好調に推移しています。成長するグローバル市場を見据え、製造能力を拡大し安定供給を実現するため、工場の増設を予定。これらの設備投資により、現在の製造能力6,500tから約1.5倍となる9,700tの製造を見込んでいます。稼働開始時期は2027年上期を予定しており、今後は営業力強化により販路を拡大し、フジ日本のイヌリンが有する多様な機能性表示・ヘルスクレームを活用することで、機能性素材事業の収益拡大を図ります。

機能性素材事業 フードサイエンス

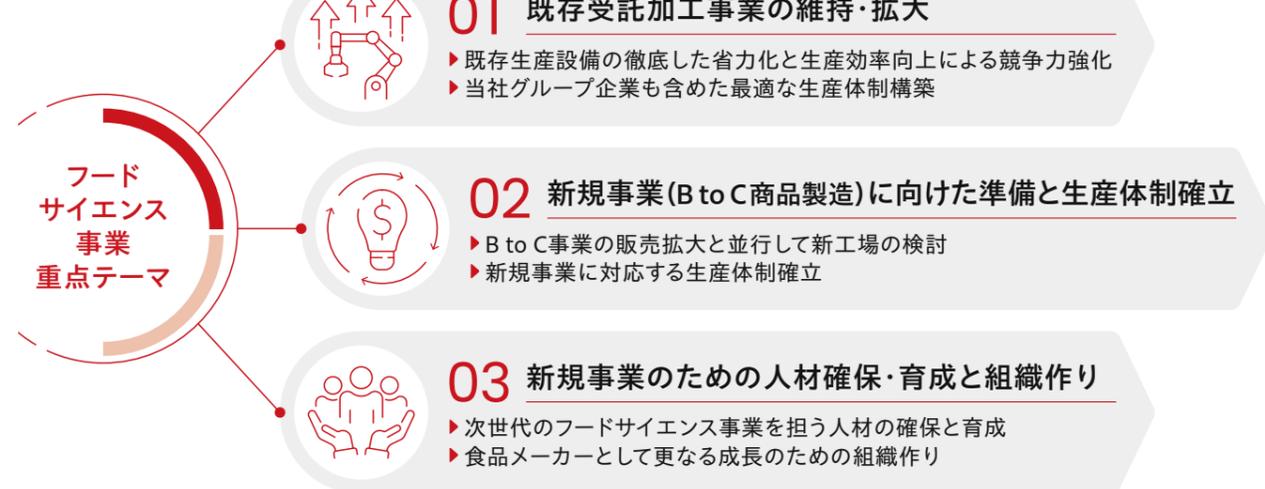
フジ日本が誇る加工技術でお客様の課題を解決する。

これまでに培った幅広い技術を用いることで、食品添加物や機能性素材をニーズに応じた使いやすい製剤へと加工します。食品添加物GMP(HACCP対応)に準拠した品質管理体制と高度な技術力により、お客様のご要望にお応えします。

▶安定粉末化技術 ▶乳化技術 ▶エキス抽出技術 ▶粉末配合技術



【重点テーマ】



重点テーマイメージ



成長戦略投資



【主な取り組み】

■イヌリンを配合した製品「フジのイヌリン」「イヌリーナ」



フジ日本では、糖類事業で培った加工技術・品質管理力を基盤に、フードサイエンス領域における受託加工や用途提案を通じた付加価値創出に取り組んでいます。その一環として、天然由来の水溶性食物繊維イヌリンを90%以上配合した原料製品「フジのイヌリン」と、手軽に持ち運べる5gサイズのスティックタイプ製品「イヌリーナ」を展開しています。イヌリンを高純度に精製し、溶解性や風味に優れる特長を活かして、食品・飲料メーカーへの原料供給や製品設計支援を行っています。フジ日本は、受託加工を起点としたフードサイエンス事業の拡大を通じ、新規事業創出と持続的な企業価値向上を目指します。

フラワー事業

花とつくる、豊かな暮らしを。

切り花はどうしてすぐに萎れてしまうのか?どうしたら長持ちするのか?そんな疑問を解決するために研究を重ね、キープ・フラワーは誕生しました。精糖会社の専門知識を活かし、切り花の栄養分となる糖をもっとも吸収しやすいかたちにして商品化。その後も研究と改良を続け、リニューアルを繰り返してきました。生産者様へは採花～出荷までの品質管理のトータルサポートを。生花店様へは仕入れ時から切り花がずっとキレイに咲き続けることでよりたくさんの消費者様の手に渡るサポートを。もっと気軽ににお花を楽しめるようになり、お花の香りや色を感じて元気をもらい、四季折々のお花で暮らしに彩りを添えるお手伝いをします。



■切り花に栄養を与える「キープ・フラワー」

切り花がもっとも吸収しやすい形で栄養を与えます。大地に咲く花のように切り花が綺麗に咲きます。お花は、切り花にしてしまうと自分で栄養を作り出すことができません。また、根がないので花瓶に入った汚れた水を吸うことしかできず、人間でいえば「栄養失調」「細菌感染」状態になってしまいます。キープ・フラワーは切り花への栄養補給と花瓶の水の腐敗防止を同時に行い、切り花をキレイに長持ちさせます。また、開花剤としての新機能がプラス。40倍(バラ・カーネーションは30倍)で希釈して与えるとつぼみが咲きやすくなり花の変色も防ぎます。



用途	早咲き	サイズ
希釈倍率	30~50倍希釈	●ミニパック(3mL・6mL・10mL) ●ボトル(100mL・200mL・500mL・2L) ●5L・10L・18L

10日間長持ち比較

[品種名:スイートアバランチェ]



キープ・フラワーを使用した場合

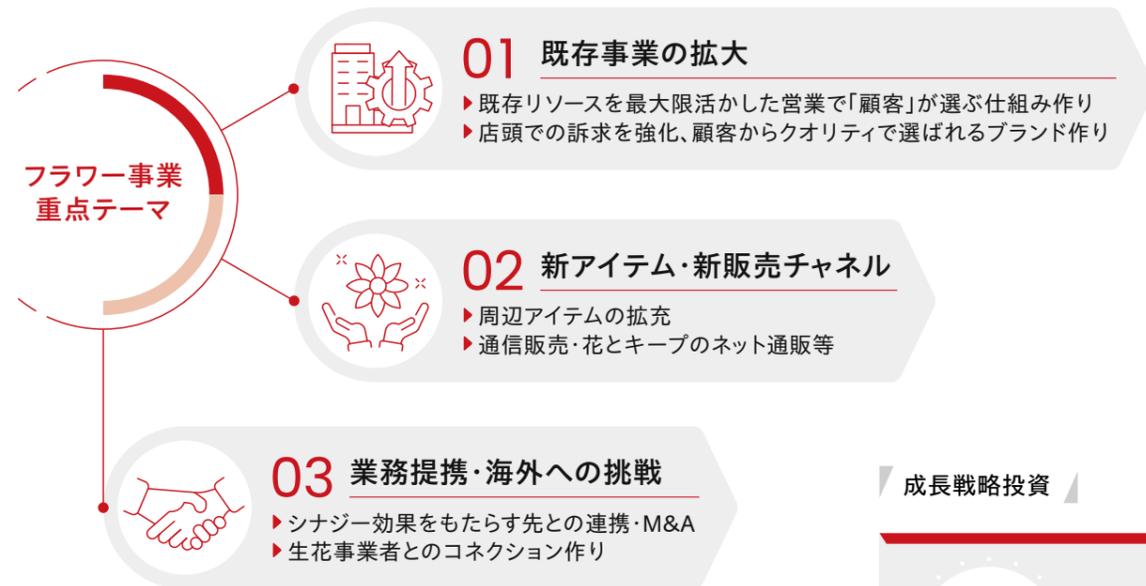


初日の状態



水道水のみを与えた場合

【重点テーマ】



重点テーマイメージ



成長戦略投資



【主な取り組み】

合成樹脂塗料「フラワースプレー彩(いろどり)」を新発売



アセトンフリー作業環境にやさしい、新しい花材演出用スプレー。アセトンを一切使用せず、有機溶剤中毒予防規則に非該当の溶剤を採用。室内作業でも扱いやすい低臭タイプで、作業者の健康と環境負荷低減を両立しました。ガス抜きキャップ付きで廃棄も簡単です。

ブランド認知向上を推進

フラワー事業課公式Instagramアカウントを開設し、消費者の声の収集およびキープ商品の特長訴求を開始。併せて、関連する各種イベントへの協賛を実施し、ブランド認知の向上を推進しています。

成長投資に向けた不動産事業

フジ日本では成長投資のための資産形成を背景に、不動産関連事業を展開しています。東京都の中央区にはビジネスホテル、横浜市と静岡市に事業用不動産を所有する等、土地建物の賃貸およびその他関連事業を行っています。



ESGの取り組み

すべてのステークホルダーとともに、持続可能な社会の実現を目指して。フジ日本は、環境保全・地域社会への貢献・健全な企業統治を柱とするESG経営を推進し、信頼と価値の共創に取り組んでいます。私たちのESGに対する想いと具体的な取り組みをご紹介します。



【取り組みの全体像】

事業リスクの軽減と持続可能な経営を目指す

マテリアリティ(重要課題)	ESGへの取り組み
E / “環境” Environment	<p>予測される気候変動のリスクを緩和し事業機会を獲得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 温室効果ガスの排出量削減(SCOPE1+2) ● 循環型社会実現への貢献 ● サステナビリティ関連事業投資
S / “社会” Social	<p>人間尊重を基本とした企業文化の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ&インクルージョン ● 健康経営 ● 人的資本投資
G / “統治” Governance	<p>実効性のある高いレベルのコーポレートガバナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンスの徹底 ● 透明性の高い企業統治

定量的にESGをマネジメントしていく

項目	テーマ	主な取り組み
環境 Environment	温室効果ガスの排出量削減(SCOPE1+2)	グリーン電力の導入活用・太陽光発電の検討
	サステナビリティ関連事業投資	アップサイクル事業への投資
社会 Social	ダイバーシティ&インクルージョン	多様な社員と働き方
	健康経営	有給休暇の取得推進
	人的資本投資	福利厚生費・研修費などの人的投資増加 働き方改革による従業員満足度向上
統治 Governance	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス研修の実施と参加
	透明性の高い企業統治	社外取締役の役割強化 取締役会の機能強化



ENVIRONMENT ::::::::::::::::::::

環境への取り組み

CDPへの取り組み

当社は、国際非政府組織(NGO)であるCDP(Carbon Disclosure Project)の2024年度のSME版スコアにおいて、最高スコアである「B」評価を受けました。これはマネジメントレベルに相当し、環境課題に与える影響を認識し、良好な環境管理に関連する「行動の根拠」を提供した回答に対して付与される評価です。フジ日本グループの気候変動に関する取り組みが国際基準からも高く評価されたことを示しています。企業活動の環境に対する影響が重要視される中、フジ日本グループは、主力ビジネスである糖類・機能性素材事業において環境に配慮した原料を製品の一部に採用。さらに、事業拠点から排出されるGHGガスの排出算定や削減にも取り組んでいます。今後も時代の要請に応えるべく、関係機関との連携をさらに深めるとともに、フジ日本グループの環境方針に則り、環境負荷を抑制する政策の提案および実行に積極的に取り組んでいきます。



Scope1-2(拠点別の詳細)

	電力 (kwh)	ガス			SCOPE(tCO ₂)		CO ₂ 排出量(tCO ₂)							
		都市ガス (1,000Nm ³)	液化石油ガス (t)	変圧器電気 機械器具の 使用率(%)	ガソリン・ 灯油(kl)	SCOPE1	SCOPE2	電力	ガス	ガソリン	その他	合計		
2022年度														
Fuji Nihon Thai Inulin	4,904,046		2,431.19	100%		7,279.9	2,147.9	2,148	7,279.7					9,427.7
ユニテックフーズ	131,953	4.473	-	-		9.16	57.79	57.79	9.16					66.95
東京本社	32,821	-	-	-	0.911	2.08	14.37	2.08	-	14.37				16.45
清水工場	572,954	6.064	0.589	-	5.934	50.69	262.9	262.9	14	15	22			313.9
合計	5,641,774	10.537	2,432	1	6.845	7,341.83	2,482.96	2,470.77	7,302.86	29.370	22			9,825

	電力 (kwh)	ガス			SCOPE(tCO ₂)		CO ₂ 排出量(tCO ₂)							
		都市ガス (1,000Nm ³)	液化石油ガス (t)	変圧器電気 機械器具の 使用率(%)	ガソリン・ 灯油(kl)	SCOPE1	SCOPE2	電力	ガス	ガソリン	その他	合計		
2023年度														
Fuji Nihon Thai Inulin	4,738,645		2,131.232	100%	3.227	6,392	2,076	2,076.8	6,382.5	8.39				8,467.69
ユニテックフーズ	119,016	5.767				12	52	51.97	11.76					63.73
東京本社	31,015	5.444			1.078	13	14	13.51	10.52	2.78				26.81
清水工場	549,563	4.985	0.484		6.049	40	252	240.8	1.38	26.22	12.75			281.15
合計	5,438,239	16.196	2,132	1	10.354	6,457	2,394	2,383.08	6,406.16	37.39	12.75			8,839.38
昨対比(%)	96.4	153.7	87.7	100	151.3	87.9	96.4	96.5	87.7	127.3	58			90

	電力 (kwh)	ガス			SCOPE(tCO ₂)		CO ₂ 排出量(tCO ₂)							
		都市ガス (1,000Nm ³)	液化石油ガス (t)	変圧器電気 機械器具の 使用率(%)	ガソリン・ 灯油(kl)	SCOPE1	SCOPE2	電力	ガス	ガソリン	その他	合計		
2024年度														
Fuji Nihon Thai Inulin	4,631,293		2,275.22	100%	0.003	6,834.266	2,028.5	2,028.496	6,823.129	8.865	2.276			8,862.766
ユニテックフーズ	110,408	6.365				13.028	48.353	48.353	13.028					61.381
東京本社	34,834	6.443			1.177	17.074	15.25	15.25	14.386	2.688				32.324
清水工場	522,028	4.105	0.44		1.954	24.265	239.598	239.598	10.483	14.088				263.863
合計	5,298,563	16.913	2,275.66		3.134	6,888.633	2,331.701	2,331.697	6,861.026	25.641	2.276			9,220.334
昨対比(%)	97.4	104.4	106.8	0	30.3	106.7	97.4	97.8	107.1	68.6	17.9			104.3

	2022年度	2023年度	2024年度
消費電力量(kWh)	605,775	580,578	556,862
購入電力量(kWh)	未実施	600,000	580,000
購入金額(円)	未実施	1,805,000	1,745,000

グリーンエネルギー証書の取得

グリーンエネルギー証書による再生エネルギーの活用

当社では、大東糖業株式会社が沖縄県南大東島の製糖工場で発電したグリーン電力を使用しています。グリーン電力とは風力・太陽光・バイオマス(生物資源)などの自然エネルギーにより発電された電力のことです。当社の精糖の主原料であるさとうきびは、栽培から製糖工程で生じる副産物まで有効活用できます。製糖工程で発生する搾りかす(バガス)は、ボイラー燃料として利用され、蒸気によるタービン発電により工場内の電力を賄っています。さらに余剰バガスはさとうきび栽培の肥料として再利用され、資源循環を実現しています。当社はこうした再生可能エネルギーの活用と資源の有効活用を通じ、CO₂排出抑制と持続可能な社会の実現に貢献しています。



グリーンエネルギー証書とは?

自然エネルギーは発電時や熱生成時にCO₂の排出が極めて少なく、再生可能であることから環境への負荷が比較的小さいことが特徴です。そのため、自然エネルギーから生み出される電力・熱は「電気(熱)そのものの価値」に加え「CO₂排出抑制による付加価値」を持つと考えられておりこの価値を「環境価値」と呼びます。

グリーンエネルギー認証制度は、この目に見えない環境価値を「グリーンエネルギー証書」として具体化し、企業が環境対策として利用できるようにした仕組みです。第三者認証機関であるJQA(一般財団法人日本品質保証機構)が設備認定や環境価値の認証を行い、発行业者のJNE(日本自然エネルギー株式会社)が証書を発行します。

証書取引はグリーンエネルギー設備の建設、維持、拡大を支援し、日本全体の自然エネルギーの普及拡大に貢献しています。

グリーンエネルギー証書のしくみ



※掲載画像は日本自然エネルギー株式会社Webサイトより <https://www.natural-e.co.jp/>

環境価値を売却することで、収益が得られ、設備の建設・維持・管理費に充てられる。 証書を購入することで、グリーンエネルギーを利用していると訴求できる。

使用電力量と同量のグリーン電力証書を購入することで、現在利用している電気が自然エネルギーによる電気とみなされます。現在の電気契約を変更したり、新たな発電設備の設置などをすることなく、どこでも簡単に再エネ電気の利用が可能です。



FTI太陽光パネル設置

2025年6月に、タイのイヌリン製造工場において製造建屋に太陽光パネルを設置。これにより従前に比べ、約10%程度の電力を削減しました。



SOCIAL
社会への取り組み

■ Edible KAYABAEN

日本橋茅場町で地域に新しい賑わいの醸成と子どもたちの未来を育むことを目的にスタートしたコミュニティガーデン・Edible KAYABAEN。当社はこのプロジェクトに2023年に参画し、ガーデンオーナーとして現地で学ぶ子どもたちの自然活動を支援しています。

ガーデンは子どもだけでなく、地域に住まい、働く大人たちがともに学び、心身を休める場所として活用されており、企業の取り組みや魅力の外部発信、社内交流イベントなどにも活用されています。



これまでの主な企画・イベント

※掲載画像は“Edible KAYABAEN” Web サイトより <https://ediblekayabaen.jp/>



精糖メーカー独自の取り組みとして、サトウキビの屋上栽培を実施。地域の子供たちとサトウキビの収穫を体験。

契約スペースの畑から獲れた野菜を使った料理の試食会。スイカ、枝豆、白菜、サトウキビなどを収穫。



キープ・フラワーの認知度向上・花卉業界の啓蒙を目的に、ブーケ作りワークショップを開催。「仕事終わりに、ほっと一息」をテーマに、働く女性を対象として実施しました。将来的には規模拡大やロスフラワーの活用も検討しています。



レインボーハウス利用者の方々と砂糖製品

■ 福祉施設への砂糖製品寄付

当社では中央区立知的障害者生活支援施設レインボーハウス明石を毎年訪問し、小売用砂糖製品を寄付しています。これらの砂糖は施設の方々によって製造されるパンや焼き菓子の原料として使用され、同施設1階に併設する「喫茶アラジン」で販売・提供されています。今後も地域福祉に資する活動を継続していきます。



喫茶アラジンの看板商品「ブドウパン」。その他、季節の素材を使ったパンや、チョコがたっぷり使われたチョココロネも定番商品として人気です。



店内の様子。パン類のほか、焼き菓子、プリンなども扱っており、クリスマスケーキの販売も好評を得ています。また、定期的に近隣の企業へ出張販売も実施しており、多い時には300個販売します。

■ リモートワーク／フリーアドレス制導入

社員のワークスタイルの多様化への対応と業務効率化、並びに組織横断的なコミュニケーションの活発化を目的として、リモートワーク（週2日を上限）とフリーアドレス制（東京本社のみ）を導入しています。

■ 社員の有給休暇・育児休業取得率の向上

当社は高い有給取得率を維持しています。直近3年間では、約60%の取得率を継続して維持しており、社員のワークライフバランスの充実を重要指標として捉え、エンゲージメントの向上に取り組んでいます。

また、育児休業制度も積極的な活用が見られ、近年では男性従業員の取得実績もあり、働きやすい環境が整っています。

■ キャリア申告／従業員アンケートの実施

当社では従業員の適正なキャリア形成をサポートすべく、社員に対する定期的なヒアリングやアンケートを実施。従業員エンゲージメントの底上げと人材の育成を図っています。

項目	単位	2023年3月期 (100期)	2024年3月期 (101期)	2025年3月期 (102期)
有給休暇取得率	%	60	55	62
育児休業取得者数	人	1	1	—
育児休業復帰率	%	—	100	—



GOVERNANCE ガバナンス

■ 基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスの考え方は、次の企業理念および経営方針を基本としています。

■ 企業理念

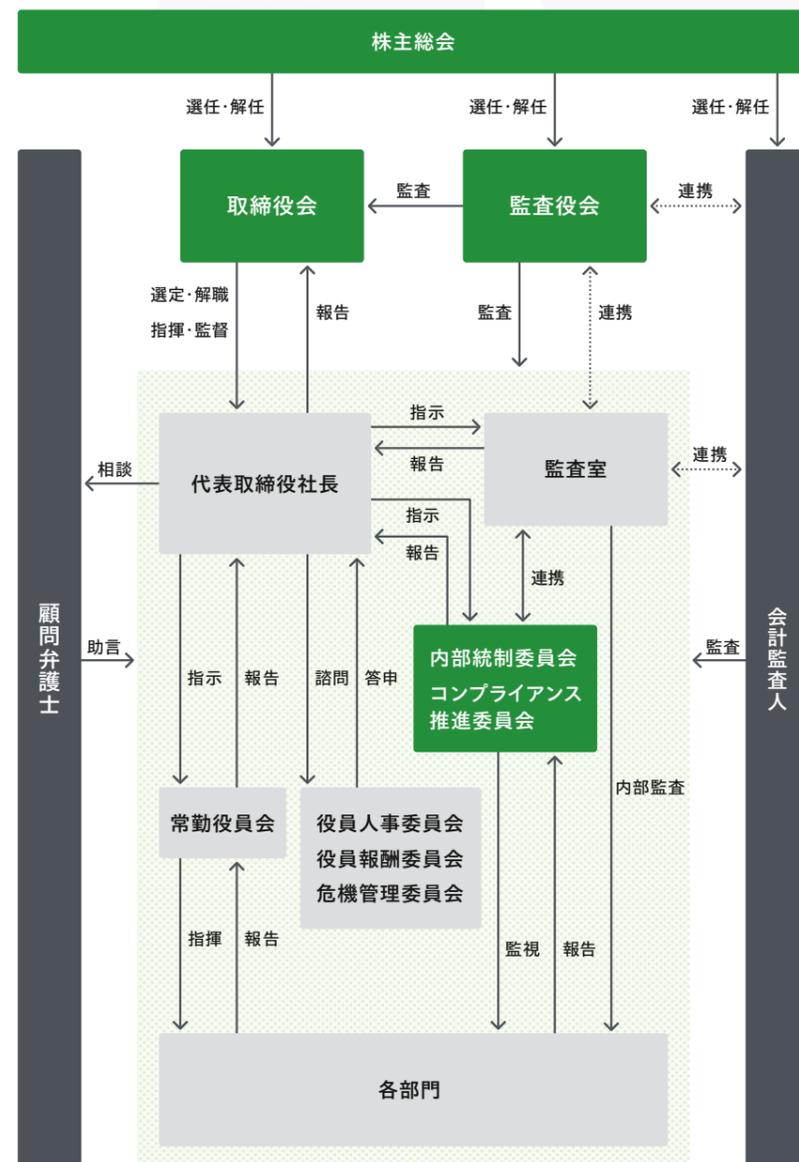
「私たちは、『夢のあるたくましい会社』を目指し、健康な生活づくりに貢献します」

■ 経営方針

- 1 顧客第一主義の徹底
- 2 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- 3 公正で透明性のある企業活動の推進
- 4 社会に評価される企業価値の向上
- 5 社会に貢献する企業市民活動の充実

公共性の高い食品事業に携わる企業として、役員はもとより社員一人一人がその重要性を認識し、企業行動の透明性、客観性を維持して水準の高いコーポレート・ガバナンスを確保するための体制を構築することが重要な課題と位置付けております。また、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図るためには、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が重要であるとも考えております。この考え方にもとづき、経営の透明性を高め、内部統制の仕組み、コンプライアンス体制の充実を図っております。

コーポレート・ガバナンス体制 模式図



■ 取締役会

当社取締役会は、毎月1回開催しており、また、必要に応じ臨時取締役会を開催し、決議すべき事項について、十分な審議検討を行い、決定した内容について経営陣幹部がこれを執行しております。

当社は、執行役員に業務執行の多くを委ねる一方、取締役会は、会社の各機能と各事業部門をカバーできるバランスを確保しつつ、知識・経験・能力・経営判断に優れた取締役により構成しており、意思決定の迅速化を踏まえ必要人員に絞った体制にしております。

■ コンプライアンス行動基準

企業倫理・法令遵守体制の充実を図るために「コンプライアンス行動基準」を作成しております。そのことによって役員から従業員まで倫理観を持って適切な判断や行動を実行できるようにしております。

■ 監査役会

監査役会は監査役3名で構成されており、その3名のうち、過半数の2名を社外監査役とし、有効な経営監視機能に努め、より公正で適正な監査を実施できる体制としております。その他コンプライアンス推進委員会や内部統制委員会等の各種委員会についても設置しており、十分なガバナンス体制が構築されていると考えております。

■ 取締役会の実効性評価

当社取締役会は、2024年度の役員体制において第三者機関による取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施いたしました。その結果、取締役会は実効的に機能していると評価しております。引き続き、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に一層貢献するため、取締役会のさらなる実効性の向上に努めてまいります。

■ 社外取締役の選定

当社取締役会は、独立社外取締役候補者として、会社法に定める社外性要件および東京証券取引所が求める独立性基準を充たし、かつ豊富な経験、高い見識に基づいて取締役会での議論に貢献できる方を選定しております。

■ 経営陣幹部・取締役の報酬

当社は、取締役の報酬等について、判断の客観性と透明性を高めるため、社外取締役を含む役員報酬委員会を設置しております。当社は「取締役報酬の方針」について、役員報酬委員会の審議、答申を踏まえ、取締役会の決議により定めております。

各事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容の決定については、役員報酬委員会が、取締役の個人別の報酬等の内容と決定方針の整合性等を確認した上で答申しているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し、取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の具体的な内容については、業績連動報酬として各事業年度の連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、ROE等の業績を評価することとしております。当該指標を選定した理由は、当社は企業価値の持続的な向上を図るためには、総合的な収益力の向上が重要であると判断しているためです。当事業年度における当該指標の連結実績は、連結経常利益3,651百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,845百万円、ROE11.9%となりました。また、固定報酬として代表取締役社長を100とする連動方式による職位別年間固定報酬を定めております。その結果、報酬構成割合は、標準的な業績の場合、おおよそ「固定報酬：業績連動報酬=70%:30%」となります。

■ 政策保有株式

当社は、政策保有株式につきましては毎期、保有の是非を検討し、企業価値の向上につながらないものについては株価の動向をみながら売却を進めます。議決権行使は、個々の株式に応じた判断が必要であると考えており、発行会社ごとにその企業価値向上に資するかどうかという観点から、慎重に判断してまいります。

INTERVIEW

with

社外取締役インタビュー

社外取締役は、事業や経営の意思決定をどう見ているのか。

これまでの経験や取締役会での向き合い方、そしてフジ日本のこれからについて聞きました。



高橋 明彦 取締役

Q1. ご自身のプロフィールをご紹介ください。

鈴与株式会社に入社以来、主に海外事業を中心にキャリアを重ねてきました。これまでドイツ、イギリス、アメリカ、タイに駐在し、いずれの国でも現地法人の責任者を

務めてきました。また、直近7年間は静岡商工会議所の副会頭としての活動も並行して行っており、地域経済の発展にも関わっています。

Q2. 取締役会で特に重視されているポイントを教えてください。

まず、人事・総務面では、従業員が長期にわたり安心して定着できる施策が講じられているか、特にモチベーションを高める取り組みになっているかという点を注視しています。営業面においては、これまでの自身の海外ビジネスの知見と照らし合わせながら、特に海外展開の妥当性について意見を述べさせていただいています。さらに、新規の取り組みについては、その妥当性や成長性といった観点から確認しています。

Q3. 中期経営計画「CHANGE 2028」の進捗をどのように評価されていますか。

会社を変えていこうとする曾我社長の強い意志とリーダーシップについては、高く評価しています。一方で、新規事業については、現時点ではまだ決定的なものが見えてきていないという印象も持っています。また、一般消費者へのアプローチを視野に入れるのであれば、ホームページやSNSを活用した情報発信戦略は、まだ強化・改善の余地があると感じています。

Q4. 長期ビジョンのゴールである2040年に向け、フジ日本に期待することをお聞かせください。

今後の成長につながると考えられるM&A、あるいはその前段階となる比較的小規模な資本出資については、より積極的に取り組んでもよいのではないかと考えています。確率論の観点から、いくつかの結果として実を結ばなくても構わない、という覚悟も必要だと思います。機能性素材に関するさらなる研究の深化と、グローバル展開の加速に大いに期待しています。

埴原 正和 取締役



Q1. ご自身のプロフィールをご紹介ください。

1986年に日商岩井株式会社(現・双日株式会社)へ入社しました。電力インフラや再生可能エネルギー事業を中心に長く携わり、2021年より現在のリテール・コンシューマーサービス本部に所属しています。これまでメキシコシティ、サンパウロ(駐在2回)、ニューヨークと、通算15年半にわたり海外駐在を経験しました。2回目のサンパウロ駐在時には、出資先であるバイオエタノール事業会社の取締役を務め、ブラジルのサトウキビ産業に関わった経験もあります。

Q2. 取締役会で特に重視されているポイントを教えてください。

事前に資料へしっかりと目を通し、特に新規事業の取り組み(投融资を含む)については、商社における自身のプロジェクト経験を踏まえながら、当日確認・コメントすべき論点を整理した上で臨んでいます。

中でも、長期ビジョンとの整合性、事業の規模感、既存事業への波及効果、そして実現確度は特に重視しているポイントです。

Q3. 中期経営計画「CHANGE 2028」の進捗をどのように評価されていますか。

連結経常利益36億円以上というチャレンジングな目標達成に向け、5つの重点テーマが掲げられていますが、その中でも「フードサイエンス領域の事業創出」と「M&Aを軸とした成長投資」については、現時点では私自身は具体的な道筋が十分に見えてきていないと感じています。残りの3年間に、これらの分野へさらに注力し、成果へとつなげていくことに大いに期待しています。

Q4. 長期ビジョンのゴールである2040年に向け、フジ日本に期待することをお聞かせください。

フジ日本ならではのフードサイエンス技術を核とした「食の科学」によって、いかに「世界をパワフルに」していくのか。その挑戦を、社外取締役の立場から大きな期待感を持って見守ってきたいと考えています。また、総合商社のネットワークを通じてお力添えできることがあれば、遠慮なく声をかけていただければと思います。



大越 いづみ 取締役

Q1. ご自身のプロフィールをご紹介ください。

私は1998年に電通に中途入社し、クライアント向けの戦略プランナーとして従事してきましたが、デジタル化の到来と外部トレンドの変化に対応すべく、当時抱えていたク

リエイターの能力開発と、これに伴う新規事業開拓のための社内戦略を任せられました。その後電通の持株会社化により、グループ会社所属となり、グローバルマーケティングを手掛けてきました。

Q2. 取締役会で特に重視されているポイントを教えてください。

経営の目的として、株主様にとっての投資価値を最大化すること、持続的な成長を実現することが挙げられますが、まずは資料を通してフジ日本の事業に対する理解を深め、常勤の方との情報の非対称性を解消することから始まります。そして中期経営計画の内容が野心的なものであるか、そして株主様の期待に応えられるのか、ということに意識を置いて臨んでいます。フジ日本はこれまで安定的な成長を遂げてきましたので、新しいことに着手する際、どちらかと言うと、リスクを取るスタンスで各案件を吟味していますが、時には、これまでの自身のキャリアによって培った直観や嗅覚というものを頼りに、意見をさせていただいています。

Q3. 中期経営計画「CHANGE 2028」の進捗をどのように評価されていますか。

攻めへの転換と野心的な中計を掲げられたことについては評価したいと考えています。糖類事業の一本足ではなく、アジアを中心とする海外事業並びにフードサイエンス事業への取り組みにも十分色濃く戦略が打ち出されていますね。既存事業の延長・強化については着実に実行されている一方、海外展開は容易ではなく、取り得る手段としてはM&Aが要になるものと思いますが、具体的な道筋はまだ見えていないように思えます。また、事業以外の取り組みについては、強い組織作りのためのDX推進、人事政策、IR活動がタイムリーに対応できていると思います。

Q4. 長期ビジョンのゴールである2040年に向け、フジ日本に期待することをお聞かせください。

現在においては、長期ビジョンを構成する第1次中計にある通り、「攻めへの転換」をしたに過ぎません。今後戦略の具体化と多角化をする際に、そこへ如何に確信を持って投資をしたり人材を充てたりすることができるかが重要であり、そのためには強いリーダーシップのある人材が求められます。また計画の遂行にあたってはガバナンスも無視できず、リスクのバランス化を図りながら、取り組んでいただきたいと考えています。

OUTSIDE DIRECTORS

経営戦略

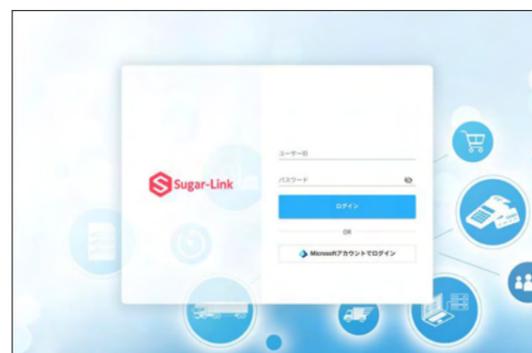
【DX推進】

WEB受発注システム「Sugar-Link(シュガーリンク)」の導入

当社は2026年度の上期より、糖類事業、機能性素材事業、フラワー事業の各種受発注に係る業務のDX化(デジタルトランスフォーメーション)。デジタル技術を活用してビジネスや組織の仕組みを根本から変革し新たな価値を創出する取り組み)を目的として、新受発注システム「Sugar-Link(シュガーリンク)」を導入する予定です。

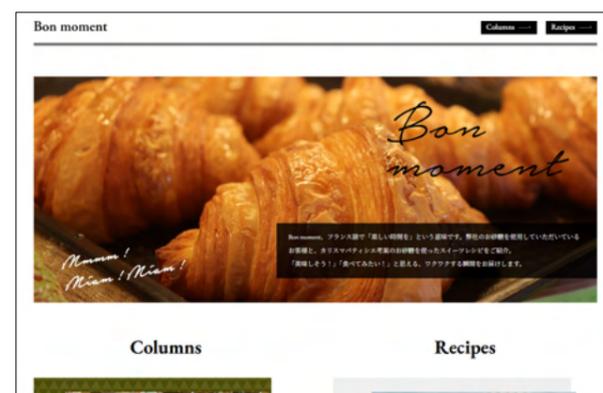
本システムの稼働により、従来のFAX・電話による受発注方式から、Webシステムでの対応が可能となり、発注から納品までの一連業務をスムーズかつ正確に行えるようになります。

また同時に、システム導入による省人化と、人的リソースの活用が促進されることが期待できます。



※画像はイメージです

【企業ブランディング】



【取材コラム「Bon Moment」】

砂糖消費の啓蒙・拡大を発信する取り組みとして、取材コラム「Bon moment」(フランス語で「楽しい時間を」)を開始しました。本企画では、当社の砂糖をご使用いただいているお客様を訪問し、プロフェッショナルによる活用ストーリーやパティシエ考案のスイーツレシピを紹介しています。第1回では静岡県の「望月茶飴本舗」様を取材し、茶飴やひとくちようかんへの砂糖の活用事例を紹介しました。第2回では新潟県の「おかしとおやき ことう」様を訪ね、地域銘菓「お六饅頭」の製造工程を取材。第3回は北海道で開催された「あさひかわ菓子博2025」を番外編としてレポートし、顧客との対話を通じて砂糖の機能性と食文化の継承を発信しています。

Bon moment Web ページ
<https://www.fuji-nihon.com/bon-moment/>

【マカロンの普及】

全日本マカロン協会監修のもと、当社は2025年10月17日に新作マカロンの即売会「マカロンコレクション2025」を開催しました。当日は全国から参加したパティシエによるさまざまなマカロンが販売されました。オープニングセレモニーでは農林水産省が実施する砂糖の需要・消費拡大に向けた「ありが糖運動」の公式マスコットキャラクター「かんみい」と、精糖工業会のお砂糖の妖精「シュガタン」によるテープカットを実施いたしました。会場ではイートクリエイター所属・前野めぐみシェフによるマカロンタワーも展示され、来場者との交流を通じて、砂糖およびマカロン文化の理解促進と業界の活性化に寄与する機会となりました。



【広報・IR活動の強化】

当社では、長期ビジョン達成に向けた人材獲得並びに企業価値向上を目的に広報・IR活動を強化しています。これまでの取り組みや事例は下記の通りです。

- ▶大口株主様への決算説明会実施
- ▶IR面談の実施
- ▶企業パンフレットの刷新
- ▶企業紹介動画の配信 (YouTube 公式チャンネルにて配信中)
- ▶YouTube 公式チャンネル開設
- ▶株式分割

今後は、より積極的な採用活動と新規株主の獲得に向けた取り組みを提案・実行していきます。



2026年1月に刷新した
 企業パンフレットの表紙

財務・非財務ハイライト

財務データ

項目	単位	2023年3月期 (100期)	2024年3月期 (101期)	2025年3月期 (102期)
経営成績				
売上高				
糖類事業	百万円	11,678	13,254	13,807
機能性素材事業	百万円	10,023	11,985	13,478
不動産事業	百万円	573	621	651
営業利益				
糖類事業	百万円	1,024	1,769	2,530
機能性素材事業	百万円	1,012	901	1,286
不動産事業	百万円	533	553	579
売上高営業利益率	%	8	8.4	11.5
経常利益	百万円	2,124	3,202	3,651
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	1,672	2,370	2,845
設備投資額	百万円	314	274	196
減価償却費	百万円	135	188	189
研究開発費	百万円	76	69	93
財政状態				
総資産	百万円	28,256	32,419	33,761
純資産	百万円	21,514	23,851	23,874
自己資本	百万円	21,450	23,825	23,827
自己資本比率	%	76	74	71
有利子負債	百万円	2,230	3,096	4,818
ネット有利子負債	百万円	-2,645	-2,178	-1,826
キャッシュフロー				
営業活動による キャッシュフロー	百万円	579	942	3,323
投資活動による キャッシュフロー	百万円	-169	-517	-1,546
財務活動による キャッシュフロー	百万円	633	-69	-376
フリーキャッシュフロー	百万円	409	425	1,777
経営関連指標				
EBITIDA	百万円	1,949	2,361	3,422
ROE	%	8.12	10.47	11.94
ROIC	%	6.69	6.59	8.93
1株あたり情報				
当期純利益金額	百万円	62.3	88.27	107.4
純資産額	百万円	798.84	887.29	928.9
配当額	百万円	17	32	34

非財務データ

項目	単位	2023年3月期 (100期)	2024年3月期 (101期)	2025年3月期 (102期)
雇用				
従業員数※1	人	54	57	59
男性	人	37	36	37
女性	人	17	21	22
平均年齢	歳	45	43	42
平均勤続年数	年	17	15	14
新卒採用者定着率	%	—	100	100
離職率	%	5	4	2
男性	人	2	1	1
女性	人	1	1	0
ダイバーシティ(多様性)				
社員における 女性の割合	%	31	37	37
新卒者における 女性の割合	%	—	33	50
男性	人	0	2	1
女性	人	0	1	1
管理職社員における 女性の割合	%	0	14	22
男性	人	9	18	14
女性	人	0	3	4
定年再雇用率	%	100	100	100
障がい者雇用率	%	4	4	3
男性	人	2	2	2
女性	人	0	0	0
職場環境				
年間平均総実労働時間	時間	1497	1541	1695
月平均所定外労働時間	時間	2	2	3
有給休暇取得率	%	60	55	62
育児休業取得者数	人	1	1	—
男性	人	0	0	—
女性	人	1	1	—
育児休業復帰率	%	—	100	—
育児短時間勤務者数	人	0	0	—
労働安全衛生				
労働災害発生件数	件	0	0	1
※1 管理職、組合員、試用・休業者含む、出向・出向受入者除く ※小数点以下四捨五入				
取締役構成				
取締役人数	人	7	7	7
社外取締役比率	%	42.8	57.1	57.1
女性取締役比率	%	0	14.2	14.2

会社情報

会社概要

商号	フジ日本株式会社
代表者	代表取締役社長 曾我 英俊
事業内容	精製糖、砂糖関連製品の製造販売 イヌリン、食品添加物、切花栄養剤の製造販売
資本金	15億24百万円
従業員	71名
大株主	双日株式会社 和田製糖株式会社 鈴与株式会社 塩水港精糖株式会社 株式会社静岡銀行
主要取引先	双日食料株式会社 カーギルジャパン合同会社 豊田通商株式会社 フジ日本商事株式会社
主要銀行	株式会社静岡銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社清水銀行

役員体制

代表取締役社長	曾我 英俊
取締役執行役員	谷津 裕司 糖類事業部 部長
取締役(社外)	高橋 明彦 埴原 正和 大越 いづみ
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役(社外)	藤田 世潤 二宮 照興
常務執行役員	和田 正 品質保証・研究開発担当
上席執行役員	新野 真人 フジ日本商事株式会社社長
執行役員	斉藤 寛 機能性素材事業部 部長 杉山 伸 事業推進部 部長 宮田 圭一郎 企画管理部 部長

組織図 (2025年10月1日現在)



国内関連企業

フジ日本商事株式会社

本社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6-7兜町第7平和ビル7階
 設立 1951年9月
 事業内容 砂糖、加工食品の販売及び不動産事業

ユニテックフーズ株式会社

本社 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-4
 設立 2002年4月
 事業内容 食感創造素材の販売事業、及び食感改良剤の製造・販売事業、食感改良技術を基盤とするODM・開発コンサルティング事業
 URL <https://www.unitecfoods.co.jp/>

太平洋製糖株式会社

本社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13-46
 設立 1983年10月
 事業内容 砂糖の受託製造業
 URL <https://www.taiheiyo-seitou.co.jp/>

南栄糖業株式会社

本社 〒891-9123 鹿児島県大島郡泊町皆川1891
 設立 1962年11月
 事業内容 原料用粗糖の製造、販売



ユニテックフーズ株式会社



海外関連企業



Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.

Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd. (Thailand)

本社 5 Sitthivorakit Building 7 Fl. Room757 Soi Pipat, Silom, Bangrak, Bangkok 10500
 工場所在地 15 Moo 17 Saeng Chuto Road, Tapha, Banpong, Ratchaburi 70110, Thailand
 設立 2012年6月
 事業内容 水溶性食物繊維「イヌリン」の製造販売、グルコース糖液の販売
 URL <https://www.ftinulin.co.th/>

Fuji Nihon (Thailand) Co., Ltd.

本社 5 Sitthivorakit Building 7 Fl. Room767 Soi Pipat, Silom, Bangrak Bangkok 10500
 設立 2013年5月
 事業内容 投融資サービス、商社事業、タイグループ会社の統括管理
 取扱商品 ステビア(守田化学工業株式会社)、その他食品素材

Day Plus (Thailand) Co., Ltd.

本社 1/88 Moo 5 Tambol Kanham Amphur U-Thai, Ayutthaya, 13210 Thailand
 設立 2014年8月
 事業内容 ロングライフ・ベーカリーの製造販売
 URL <https://marunaka-th.com>

Thai Wah Fuji Nihon Co., Ltd.

本社 Thai Wah Tower I, 6th Floor, No. 21/11, 21/13 South Sathorn Road, Tungmahamek, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand
 設立 2025年1月
 事業内容 タピオカでん粉、でん粉関連製品の製造販売
 URL <https://www.thaiwah.com/en/home>

All Asian Countertrade, Inc

本社 6th Floor Cacho Gonzales Bldg., 101 Aguirre St. corner Trasierra St., Legazpi Village, Makati City, Metro Manila, Philippines 1229
 設立 1994年
 事業内容 食品等の商社事業、当社イヌリン製品の販売代理
 URL <https://www.aaci.ph/>



MARUNAKA



MAKE THE WORLD
POWERFUL
with food science

食を科学し世界をパワフルに

 **フジ日本株式会社**

フジ日本株式会社
企画管理部
〒103-0026
東京都中央区日本橋兜町6番7号 兜町第7平和ビル7階
<https://www.fuji-nihon.com/>

公式Instagram

各部署の公式Instagramアカウント

糖類事業部



@fn_sugar

機能性食品事業部



@inulina_fnofficial

フラワー事業課



@keep.flower

公式YouTubeチャンネル

フジ日本株式会社公式チャンネルを設立。
会社紹介動画も公開しています。

<https://www.youtube.com/@FUJINIHON>



IRサイト

フジ日本株式会社のIRサイト。
株主や投資家の皆様に最新情報をお届けします。

<https://www.fuji-nihon.com/ir/>

